

[塾長インタビュー]

～塾長インタビューでは、塾長ってどんな人？やKEISHOについてもっと知りたい！塾選びで気になるあんなこと、こんなことについてお答えします。

① まずは、KEISHOの目指す教育とは何でしょうか。

・KEISHOの目指す教育では、学力や成績を上げることと同じくらい大切にしたいことは、「学ぶ」ことは楽しいことであり、自分のよりよい将来のためにすることだと生徒たちの意識を変えてもらうことです。それには、特に勉強がニガテな生徒が抱く「勉強は嫌なもの」、「誰かにやらされる」、「しなければいけない」、「テストの点数を上げることが目的」といったマイナスの固定観念を変えていく必要があります。学ぶことはポジティブなことであり、楽しく学ぼうとする意識を持つことこそが、その生徒にとっての長期的な視点での「学び」の基本姿勢となり、よりよい人生を歩むための強力なツールとなります。そして、私たちの教育理念である「自学・自律・自立（リンク）」につながると考えます。

KEISHOの目指す教育を実現するために当塾では「KEISHOスタイル（リンク）」という教育方針・指導方法に基づいて教育サービスを提供をしています。

② KEISHOに通う生徒たちにとって「学ぶこと」の意味とは何でしょうか。

・自分の人生をよりよくするため（自分の人生を自らデザインし、選択できるように）に学びがあって、そのために人は学び続ける（努力する）必要があります、意味があるということでしょうか。当塾での学習体験（KEISHOスタイル）を通じて感じ取ってもらい、私たちがそのことを実践している姿を生徒たちに見せ続けることが大切だと思っています。

・また、「なぜ学ぶのか」、「なぜテストで良い点を取ったほうがいいのか」、などの理由を伝えるだけでなく、生徒本人に問いかけて、考えさせることも大切だと思います。学習するのに理由も目的も感じられず、テストの点数が悪いからと塾に通わされ、学校の授業にもついていけないのに塾でもわからないままだらだらと長時間座りっぱなし。想像しただけでうんざりしませんか。これで勉強が好きになったり、テストの点数が上がるのかは疑問ですよね。ですので、「なぜ学ぶのか」から考えてもらうことはとても大切なことであり、親子間でもぜひ話し合ったり、考えてみていただきたいことですね。

③ KEISHOの特徴を教えてください。

・当塾の大きな特徴は、一人ひとりの授業の「個別化・最適化」を目指す「個に応じた教育」の実践にあると考えます。一般的なマニュアル化された個別指導ではなく、講師それぞれのスキル

や特性を活かした丁寧な指導やきめ細かな対応に加えて、毎授業の授業計画は塾長・副塾長が作成し、毎授業ごとに課題を見つけては改善を繰り返しています。ここまで生徒にとって最適な指導方法・内容・教材となるように個別化・最適化を図る個別指導は他にはなかなかないと思います。

・加えて、現在、必要に応じて複数の講師による[チームティーチング（サポート）の取り組み（リンク）](#)を進めており、生徒の学習環境の向上に取り組んでいるのも特徴的です。さらには、生徒と講師の距離感が近いことや、各生徒に適した学習進度で授業を進めることができたり、おしゃれで安心感のある空間で学習できるのも生徒には好評ですね。ここでは伝えきれないこともございますので詳しくはHPをご参照ください。

※詳しくは「[KEISHO スタイル（リンク）](#)」をご一読ください。

④ 授業の「個別化・最適化」についてもう少し詳しく教えてください。

・いわゆる「個別指導」の塾は日本全国どこにでもあります、その指導方法は担当の講師がいて生徒1～3人を塾のテキストを使って指導するものがほとんどです。フランチャイズなら塾の決められた指導方針に基づいて一定の枠の中で指導するので「生徒が塾のやり方に合わせる」のが当たり前になります。当塾のKEISHOスタイルの「個別化・最適化」された授業では従来のやり方の逆で「**塾のやり方を生徒に合わせる**」方式（**自分だけの授業**）を採っています。**指導方針、内容、教材も授業をしていく中でその生徒の学力や特性に合わせて最適となるように対応させていきます**。一人ひとりに合わせて私たちも知恵を絞らないといけないのでとても大変ですが、ここをやりきることを私たちは責務と考え、ICT教材やチームティーチング（サポート）などの手法を活用しながら進めています。

⑤ 塾の理念に「自学・自律・自立」とありますが、具体的な取り組みは。

・「自学」は自ら学ぶ習慣づけをすることですが、これがなかなか難しい。普段、勉強時間が少ない生徒に対しては、授業後に自習で残ってもらったり、宿題の内容を簡単にしたり、授業中に自分で進められるICT教材を使ったり。いろいろ工夫しながら、時間をかけて意識を変えてもらい、少しずつ自分で学習する習慣をつけてもらっています。中1や中2から通っている生徒は中3になれば意識と行動が驚くほど変わっていきますね。

・「自律」は自分を律すること、自分が決めたこと（学習計画）や約束したことを守ること。「自立」は将来、自分で食べていける力をつけること。「自学」と「自律」があってこそ「自立」する力がついていくと考えます。また、「自立」していくためには自分で考えて、行動する姿勢が必須です。ですので、当塾ではちょっとしたことでも「自分で選ばせる、判断させる」ことを重視しています。たとえば、親の言うことをそのままやることを続けてきた生徒は自分で判断することがとてもニガテなんですよ。まずは自分で考え、行動するトレーニングをコーチングの手法などを用いながら授業中にさりげなく取り入れています。

・また、すぐに先生にいろいろ聞くのではなく、自分で考えさせて、自分で調べられるような簡単なことは自分で教材や辞書を使って調べさせています。情報はいつも誰かに、適切なタイミングで与えてもらえるものと考えていては将来、情報に振り回されるだけの大人になってしまいます。情報リテラシーの向上は、自立には欠かせない要素だと思っています。

・さらには、講師と生徒の距離感が近いので、授業の合間や授業後に、私たちの経験談や受験、仕事、社会、人間関係、恋愛のことまで話をすることもありますし、進路相談などにおいても、話の中で「問いかけ」をして考えさせることも日常的な取り組みとして実施しています。

⑥ e-ラーニング（オンライン）教材も使われているとのことですが。

・文科省も令和3年の答申などで「個別最適な学び」「個に応じた指導」をICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を通じて充実させていく方針だと指摘しており、少人数対応やICTの活用は今や教育の「個別化・最適化」には欠かせないツールとなっています。

・当塾においても、自分で進める学習と講師が指導する学習とを明確に分けており、自分で進められる学習はICT教材を活用しています。自立して学習させる部分+自己学習を管理すること、そしてわからない点やつまづきを講師が丁寧に指導することでより効果的な指導が可能となり、自学・自習の意識も育まれていきます。また、ICT教材を使うことで、各生徒の学習データも随時確認でき、蓄積されるので、ニガテ発見&克服や生徒の学力分析などに活用もしています。

⑦ e-ラーニング教材をやらせっぱなしにするだけではと心配される声もあります。

・それはないですね。むしろ、学力や特性に応じて使い分けており、全く使わないテキストベースの生徒さんもいます。あくまで教材の一つとして活用しています。学習がニガテな生徒さんは一からレクチャー（単元の基礎）を受けないと理解が追いつかないことも多いので利用されることが多いですね。

・あと、よく使うのが**定期テスト作成機能**です。これはスグレもので使っている教科書のページを入力するだけで範囲内のテスト問題を作ってくれます。理社などは自習でよく使ってもらっています。社会で98点取った生徒はこのテスト機能を自習で使いまくってましたね。

・こんな感じであくまで**講師による指導が中心**になりますし、生徒の学習に効果的で必要な教材であればテキスト教材であれ、e-ラーニング教材であれ関係なく使っていきたいと思います。

⑧塾長と副塾長の直接指導に加えて、社会人講師と大学生（院生）講師も指導されているようですが。

・社会人講師だから、大学生講師だから良し悪しが決まるわけではないですし、**個人の指導力や人間性を重視して講師は採用**していますのでご安心ください。実際、私よりも教え方が上手い講師ばかりだと思っています（笑）。また、マニュアルに基づく一律で横並びの指導方法よりも、各講師の持つ「良さ」を存分に活かしてもらうことも大切にしています。そうすることで、各生徒に合った講師の選択肢も増えますし、私にはないスキルや経験などを生徒に伝えていただくこともできます。

・また、一人の講師に担当生徒をまかせっきりにするのではなく、**毎授業のカリキュラムは塾長と副塾長が作成し、複数の講師で生徒をサポートするチームティーチング（サポート）体制**を進めているので、授業の課題なども多様な視点で発見、共有して改善に繋げています。

⑨宿題についてですが、宿題は出されているのでしょうか。

・宿題は生徒の学力や必要に応じて出すようにしています。というのも、単元がわかっていないのに毎回大量の宿題を出してもそもそもできるわけがなく、宿題をやっていかないのではなく、やっていけない状況が続くようになります。これでは宿題に何の意味もありません。ですので、できる生徒にはどんどん出しますし、ニガテな生徒にはできる内容の宿題を出すようにしていますが、まずは学校の宿題を授業や自習に持ってきてやり抜くことを推奨しています。できるようになってきてはじめてどんどん宿題を出していける感じですね。

⑩学校に通いにくい生徒も受け入れているとのことですが。

・当塾ではあらゆる子どもたちの「**継続的な学習**」の**機会を作ること**を至上命題と考えています。どのような状況であれ「学ぶことはできる」ということを知ってほしいですし、「学ぶことを絶対にあきらめないでほしい」と強く感じています。学び続けていれば人生の突破口は開ける。そう信じてくれるようなサポートをしていくことが重要だと考えます。ですので、状況に応じて授業プランを個別に提案させていただきますのでお気軽にご相談ください。

⑪授業の「個別化・最適化」など授業の質の向上にこだわっていますが、やりすぎると大変だと思われそうですが、。。

・確かに、私自身、やりすぎると日々のオペレーションの増加や人件費などコストがかさみいろいろ回らなくなると言われてきましたので。そういう意味ではたぶんやりすぎの部類なのかもしれません（笑）。そこは雇われ教室長ではなく、個人経営で、夫婦でやっているからできるんでしょうね。二人とも教えることが大好きでやってますし、ストイックなので授業の質には徹底的にこだわります。私自身は以前、無料の学習塾を仲間と開校するほどなのでビジネスマンというより根っこが社会起業家（※）なんです。コストも手間もかけてでも子どもたちの未来を良くするお手伝いをしたい。でも、ボランティアでは続かないのでしっかり利益を出せるビジネスベースでやっている感覚かもしれません。だから、他塾さんも大変なんで絶対真似とかしたくないでしょうね（笑）。

（※）社会起業家：ビジネスを通じて社会課題の解決に取り組む起業家のこと。

⑫入塾を検討されている保護者の方々へひとこと。

・当塾では、学習の「量」よりも「質」にこだわっています。というのも、学習の質ではなく量から入ってしまうと生徒は勉強自体に意味を感じられなくなるだけでなく、勉強そのものが嫌いになってしまうことがよくあるからです。効率的かつ効果的で質の高い教育を通じてこそ、勉強の楽しさや意味について自分で考える余裕が生まれていきます。そこから自学・自習の流れが生じて、自ずと学習時間は増えていくと考えます。

・学習する意味を伝える→学習方法を身につける→得意な単元や教科を見つける→テストの点数を上げる→自信に繋がる→次もがんばりたくなる→勉強が嫌いではなくなる→学ぶことの意味を知る といった好循環を作っていくことがこれからの個別指導塾の大きな役割だと考えます。私自身も一講師として教え方がもっとうまくなりたいですし、生徒たちの背中を押したり、より良い方向に引っ張れるコーチのような存在でありたいと思っています。

・塾って多感な時期の中学生にとって実はとても大事な学びの場だと思うんです。ただテストや受験のために通った場として記憶されるのではなく、生徒たちが大人になっても「KEISHOの生徒でよかった」と思ってもらえるような人生の学び舎であり、またいつでも気軽に戻ってこれるような居場所であり続けたいですね。

⑬最後に、子どもたちにメッセージを。

・私はいわゆるロスジェネレーション（就職氷河期）世代でいろいろ苦労もしましたが、それに比べて今は本当に世の中が大変なことになってきたように思います。これからも何が起きるかわからない。けど、どのような状況でも「学びは継続できる」し、「学ぶことをあきらめない」でほしい。また、誰かのために学習するのではなく、まずは自分のよりよい将来のためと思って大いに「楽しく」「前向きに」学んでほしいと願っています。

・また、若いうちは失敗することをおそれずに、どんどんいろんなことに挑戦してほしいと思います。私たちもそのお手伝いができれば嬉しいですね。良いこともそうでないことも含めて自分の人生です。「自分の人生をじっくり味わうことができる」ような素敵な大人を目指してください。